

2023年度 地理Bシラバス

地理B	単位数	年間授業時数	学科・学年・学級・クラス編成
	4単位	120時間	普通科・3年1組 選択授業、3年2・3組 選択授業
	使用教科書	高等学校 新詳地理B (帝国書院) 「新詳高等地図」 (帝国書院)	

学習の到達目標	1.自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化等を通して現代世界の特色を探る。 2.現代の世界を地域（市町村規模、国家規模、州・大陸規模）ごとに学ぶ。 3.現代世界の諸課題（国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題）を理解する。 4.地理という学習（教科）が世界を捉えるうえで重要であることを理解するとともに、世界の諸問題に対して考え、自分の意見を言える力を身につける。
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評 価 の 観 点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に向かう態度
・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択し、活用することを通して現代世界の地理的事象を追求する技能を身に付けるとともに、追及した過程や結果を適切に表現できる。	現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しようとしている。	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。

ル ー プ リ ッ ク		
理想的な到達のレベルの目安 (A)	標準的な到達のレベルのめやす (B)	未到達レベルの目安 (C)
基礎的・基本的知識を習得し、地理的事象に関する関心と課題意識を高め、意欲的に国際社会に生きる自己の生き方・あり方との関連から考察を深め、論述・説明することができた。	基礎的・基本的知識を習得し、地理的事象に関する関心と課題意識を持ち、国際社会に生きる自己の生き方・あり方との関連から考察をすることができた。	基礎的・基本的知識を十分に習得することができず、十分に考察を行うことができなかった。
学習者による判断の大きなめやす		
学習の目標を十分に達成し、知識を身につけ、考察を十分に深め、学習内容に自分の考えを盛り込んで人に説明することができる。(80%～90%)	学習の目標を達成し、知識を身につけ、考察を深めることができた。(60%～70%)	学習内容を十分に理解することができず、十分に考察を深めることができなかった。(30%～40%)

月	単元名	時数	時限	学習の目標（ねらい）及び内容		
4	第1部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 1節 地図の発達 2節 地図の種類とその利用 3節 地理情報の地図化	6	6 ～ 17	さまざまな時代や種類の地図の読図などを活動を通して、各時代の人々の世界観をとらえ、現代の地図や身近な地図の有用性に気づく。 球体としての地球の特徴を捉え、球体を地図に表現した場合の特徴や、時差の求め方を通して、現代世界の地理的事象をとらえる地理的技能を身につける。 地理情報の統計地図化などの活動を通して、地図の有用性に気づき、現代世界の地理的事象をとらえる地理的技能を身につける。		
	2章 地図の活用と地域調査 1節 地図の活用 2節 身近な地域の調査			2	18 ～ 26	直接的に調査できる地域を地形図などの地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色をとらえる地理的技能を身につける。
5	第II部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 1節 世界の地形	8	27 ～ 49	世界の地形を営力的な視点で分類し、大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察するとともに、災害と恩恵など人間生活との関わりを考察する。		
	2節 世界の気候と人々			8	50 ～ 75	気候要素と気候因子の関係から、その成り立ちを考察し、それぞれの気候区の特徴と農業など人間生活への影響を考察する。
	3節 日本の自然の特徴と人々の生活			2	76 ～ 81	地形や気候の特徴と、これによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。
	4節 環境問題			2	82 ～ 93	世界の環境問題の成因や特徴と対策、地域的な分布を大観し、さまざまな環境問題のうちから地球温暖化、森林破壊、砂漠化について、事例を考察する。日本の環境問題の特徴と対策について考察する。
6	2章 資源と産業 1節 世界の農林水産業	6	94 ～ 111	世界各地の農業の一般的共通性と地域的特殊性を理解する。農業と自然環境の関連、農業と社会環境との関連を理解する。世界や日本の抱える農業問題を考察し理解する。 世界各地の水産業の一般的共通性と地域的特殊性を理解する。水産業と自然環境の関連、水産業と社会環境との関連を理解する。日本の抱える水産業の問題を考察し理解する。		
	2節 食糧問題			3	112 ～ 119	世界の食糧需給の地域的なかたまりを大観し、発展途上国、先進国、日本についての事例を考察する。
	3節 世界のエネルギー・鉱産資源			3	120 ～ 127	エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。
7	4節 資源・エネルギー問題	3	128 ～ 135	現代世界の資源・エネルギー問題を大観し、世界の資源をめぐる問題、エネルギー生産や消費の抱える課題、日本の資源・エネルギー問題を考察する。		
	5節 世界の工業			4	134 ～ 152	工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。
9	6節 第3次産業	2	153 ～ 157	現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光産業の特徴を考察する。		
	7節 世界を結ぶ交通・通信			2	158 ～ 161	交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。
	8節 現代世界の貿易と経済圏			2	162 ～ 167	世界貿易や経済圏の現状と課題や、世界のなかでの日本の貿易や経済の現状と課題を考察する。
10	3章 人口、村落・都市 1節 世界の人口 2節 人口問題	4	167 ～ 179	世界人口の分布や特徴や動態、人口構成や人口転換を考察する。人口問題について、世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。		
	3節 村落と都市			2	180 ～ 189	村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。
11	4節 都市・居住環境	2	190 ～ 200	世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生の仕組みを、発展途上国、先進国、日本の事例で考察するとともに、都市・居住問題の解決には何が必要かを考察する。		
	4章 生活文化、民族・宗教 1節 世界の衣食住			2	201 ～ 207	衣食住を取り上げ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察する。
12	2節 民族と宗教	2	208 ～ 211	民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。		
	3節 現代世界の国家			1	212 ～ 213	国境と領域のきまりやさまざまな国家の分類について考察する。
	4節 民族・領土問題			4	214 ～ 226	現代世界の民族・領土問題を大観し、日本の民族や領土、世界各地の民族の共生についての課題を考察する。
	第III部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分とはなにか			1	227 ～ 230	地域区分と何かについて、地域概念や地域区分の目的、意義を理解し、有用性に気づく。
1	2章 現代世界の諸地域 1節 地域の考察方法 2節 東アジア	6	231 ～ 244	地域の考察方法について、地誌的に考察する方法として、多様な事象を項目ごとに整理して考察する方法、特徴ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察する方法、対照的又は類似的な正確の二つの地域を比較して考察する方法があることを理解する。 東アジアについて、形式的な地域区分にもとづき、地形と気候、中国の民族と人口、食生活と農業、工業化と経済発展、中国の動向と日本、朝鮮半島の成り立ち、韓国の産業、隣国との交流という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。		
	3節 東南アジア			4	245 ～ 255	形式的な地域区分にもとづき、自然、歴史と文化、民族、農業と変化、ASEANと工業、ASEAN諸国の変化と諸課題という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。
	4節 南アジア			4	256 ～ 262	形式的な地域区分にもとづき、地形と気候、歩みとヒンドゥー教、インドの農業と農村、工業・IT産業という多様な次章を項目ごとに整理して静態的に考察する。
1	5節 西アジアと中央アジア	4	263 ～ 269	乾燥帯が広がる自然環境に着目した地域区分にもとづき、自然、イスラームの生活文化、交易と都市、資源と産業の区分において、類似的な性格の二つの地域を比較して考察する。		
	6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ			4	270 ～ 276	中近東文化と中南アフリカ文化という文化に着目した地域区分に基づき、気候と植生、歴史的背景と文化、一次産品への依存、生活の変化と他地域との結びつきの面において、対照的な性格の二つの地域を比較して考察する。
	7節 ヨーロッパ			6	277 ～ 288	気候と大地、ヨーロッパの成り立ち、地域内の結びつき、農業と共通農業政策、移り変わる工業、これからのヨーロッパという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。
	8節 ロシア			4	289 ～ 294	亜寒帯が広がる自然環境に着目した地域区分にもとづき、歴史と社会の変化、変化した産業、極東ロシアと日本との結びつきという多様な事象を項目ごとに整理して考察する。
2	9節 アングロアメリカ	6	295 ～ 307	ゲルマン文化に着目した地域区分にもとづき、自然環境、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、科学技術と産業、世界の中のアメリカ合衆国、アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。		
	10節 ラテンアメリカ			4	308 ～ 315	ローマン文化という文化に着目した地域区分に基づき、自然環境、文化、土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という特徴ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動的に考察する。
	11節 オセアニア			4	316 ～ 323	一つの大陸と太平洋の島々、移民の歴史と多文化社会、強まるアジアとの結びつき、アジア諸国に輸出される農畜産物という特徴ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動的に考察する。
2	3章 現代世界と日本 1節 日本が抱える地理的な諸課題 2節 日本が抱える課題の追求	3	324 ～ 329	現代世界における日本の特徴について、多面的・多角的に考察し、日本が抱える地理的な諸課題を探求する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土のあり方などについて展望する。		

- 【課題・提出物等】 レポート、ワークノート、課題プリント等
- 【第1学期の評価方法】 考查評価、課題追究学習、課題プリントへの取組などの割合
 【課題・提出物等】 随時、不定期に課題を課す。また、提出物も不定期に確認・採点する。
- 【第2学期の評価方法】 1学期に準ずる。
 【課題・提出物等】 1学期に準ずる。
- 【第3学期の評価方法】 1学期に準ずる。
- 【年間の学習状況の評価方法】 定期試験だけでなく、討論会への活動状況やレポートの提出、授業やグループ活動への積極性等を加味したい。